

日本のあるべき姿の持続と変化
—JGSS - 2009/2013 ライフコース・パネル調査を用いた分析（3）—

京都大学 園部香里

1. 問題の所在

新自由主義路線か、北欧型福祉か、日本型の終身雇用を軸とした企業による福祉か。近年日本では目指すべき社会像が揺れている。このような目指すべき社会像について報告したものに、北海道大学の「日本人が望む社会経済システムに関する世論調査」がある（北海道大学 2007）。この調査では、冒頭にあげた3つの社会像のうちどれが望ましいかを尋ねており、約6割の人が北欧型の福祉を重視する社会像を支持するという結果であった。しかし、この調査の報告書では基礎的な分析にとどまり、詳細な分析がなされておらず、どのような要因によって社会像への支持に差異が生まれるのか明らかになっていない。また政治・経済が目まぐるしく変化する時代にあって、人々の望ましい社会像についての意見は変化しないと考えるほうが難しい。以上をふまえて、本発表では、2009年と2013年それぞれの時点において、目指すべき社会像がだれによって支持されているのか、また支持層に変化はあるのか、さらにどのような人々が意見を変えたのか、という問題について報告する。

2. データ・基礎集計

今回の分析では、2009年と2013年に行われた縦断調査である、JGSS ライフコース・パネル調査のデータを用いる。2009年から2013年までの変化を分析するため、両調査に参加した718名（男性：282名、女性：436名）を対象とする。この調査では、「アメリカのような競争と効率を重視した社会」、「北欧のような税は高率だが福祉を重視した社会」、「かつての日本のような終身雇用を重視した社会」の中から、今後の日本のあるべき姿を尋ねている。全体的な回答分布は4年間で変化はなく、競争重視が1割、福祉重視が5割、終身雇用重視が3割となっている。

3. 分析の課題

まず、2009年と2013年の結果について、それぞれの支持者の属性を分析する。例えば、2009年・2013年ともに男性に競争重視、女性に福祉重視の傾向がある。

次に、2009年と2013年の支持者の変化について分析する。2009年と2013年で全体的な回答分布はそれほど変化がないが、内訳は異なっている（図1参照）。2009年時点で福祉重視だった人は2013年でも7割が継続して支持をしているが、競争重視を継続して支持しているのは約4割にとどまる。このように福祉を重視する人の態度はあまり変わらないが、競争を重視する人は変化する傾向がうかがえる。当日はどのような人が支持を継続し、また意見を変えるのかについて発表する。

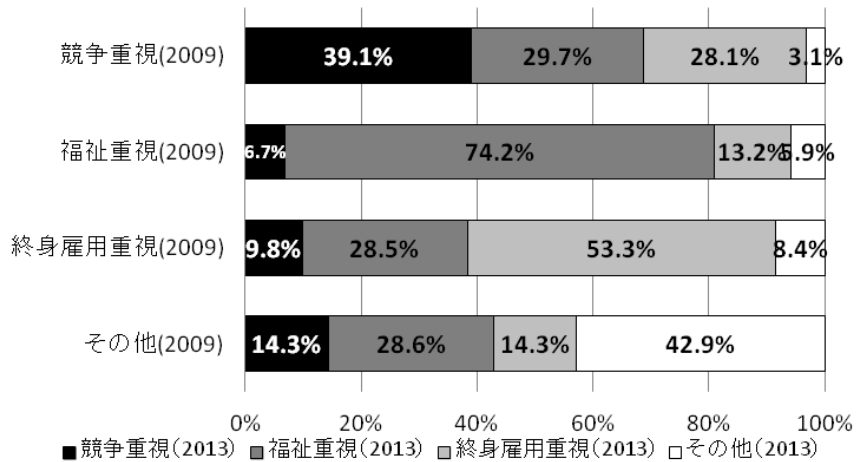


図1 「日本のあるべき姿」の回答変化

付記

日本版 General Social Survey ライフコース調査（JGSS-2009LCS）は、大阪商業大学 JGSS 研究センター（文部科学大臣認定日本版総合社会調査研究拠点）が実施している研究プロジェクトである。JGSS-2013LCS(Wave2)は、大阪商業大学 JGSS 研究センターと京都大学教育学研究科・教育社会学講座が共同で実施している研究プロジェクトである。

参考文献

北海道大学,2008,『「日本人が望む社会経済システム」に関する世論調査』北海道新聞情報研究所。